








## おすすめ課題の紹介

以下に紹介する課題は、筆者が勤務校でもに自閉症スペクトラム障害のある児童生徒の学習グループの学習指導で用いたものです。個別学習で「自立課題」として、あるいは「支援課題」として実践したなかでおすすめのをいくつか紹介します。 ※（ ）内は太田の Stage による。

課題	ねらい	説明
 <p>ブロックパズル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味ある形の構成</li> <li>・試行錯誤 (Stage III-1 以上)</li> </ul>	<p>立方体積木の6面のうちの1面を選んで、見本の写真を見て、写真と同じものの形に仕上げる。立方体積木のいずれかの1面を選ぶことで、6つの違った形のものが構成される。立方体積木は1辺が5cmのもの、あるいは2cmのものの2種類。12個からなるパズルと6個からなるパズルがある。図柄の写真は身近なものをデジカメ撮影したものを用いている。右の写真は、積木のブロックの例。構成する図柄の写真は、子どもに選ばせて、写真のように並べさせる。完成したら、自分で裏向けるように指導する。全部裏返れば、この課題はおしまい。積み木の6面をしきりに見ながら構成するようす（試行錯誤）が見られる。</p> 
 <p>積木ブロック</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面（写真）に表わされた立体形の構成</li> <li>・手指の巧緻性 (Stage III-2 以上)</li> </ul>	<p>1辺が2cmの立方体の積木10個を使い、写真に示された立体構成をまねて作る。写真では見えないところにも積木を置くことが必要な構成もある。部分ではなく、全体構成を見ることが必要となる。あるいは、そのような力を養っていく。土台となる見えないところに積木を置くことができないようすも見られるが、くり返すうちに置けるようになってくる。</p>
 <p>プラブロック</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な短期記憶</li> <li>・色の弁別</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・注意集中 (Stage II 以上)</li> </ul>	<p>市販「ブロックアート」（ニチガンオリジナル）を使った課題。完成状態の写真をカードで示して、ブロックを1個ずつ配列して、同じ図形を作る。図形は、具体的なものを表しているものがよい。根気よく取り組める場合が多かった。</p>
 <p>レゴブロック</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形の構成</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・順番を追って作業する力 (Stage III-1 以上)</li> </ul>	<p>市販のレゴブロックやダイヤブロックを使い、手順書にしたがって、構成させる。構成物は、市販品そのものであったり、担当者のオリジナルである。手順書は、市販品付属の組み立て図とは別に、ブロックが1個～数個増えていくように作成過程を構成しなおし、写真に示すように、わかりやすい形で独自にカラー写真で作成する。手順書はめくっていけば、次の工程が出てくるようにする。左の写真は完成したジャンボジェットと手順書。</p> 

 <p>折り紙</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形の構成</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・注意集中</li> </ul> <p>(StageIII-1 以上)</p>	<p>手順書を見ながら、折り紙をする課題。手順書とともに、完成したものを示すと見通しが持ちやすい。簡単なものは下の写真。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="719 248 917 396">  <p>せみ</p> </div> <div data-bbox="959 248 1157 396">  <p>ひこうき</p> </div> </div>
 <p>おりもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期記憶</li> <li>・規則性の理解</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・根気強さ</li> </ul> <p>(StageIII-2 以上)</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p>釘 タコ糸</p> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p>毛糸を充分に通した後、両端の釘に結んだタコ糸を解き、隣の釘を通っているタコ糸に結ぶ。そして、作品を釘からはずす。</p> </div> </div> <p>15cm×25cm、厚さ1cm くらいの木版に、上図のように向かい合うように釘を少し打ち込んで立てる。タコ糸を上図のように釘に沿わせ、最初と最後の釘のみ結ぶ（後で解くので、解きやすいように）。板よりも少し長い毛糸を「パターン1」と「パターン2」のように、タコ糸の上下を縫うように交互に通していく。「パターン1」と「パターン2」は違う色の毛糸を準備する。上の説明を参照。写真のように、2色の毛糸を通すところにその色の紙を置くなどすると、2つのパターンの通し方が分かりやすい。</p>
 <p>輪ゴムかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを持つ力。</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・注意集中</li> </ul> <p>(Stage II 以上)</p>	<p>板の左右に離れた釘に輪ゴムをかける。一方の釘に輪ゴムをかけ、板を片方の手で持ち、もう一方の手で輪ゴムを引っ張り、他方の釘にかける。写真は、途中に引っ掛けを作り、そこにも輪ゴムをかける。基本形は右の写真で、左と右の釘にひとつの輪ゴムをかける。この写真では、その繰り返しを15回行なう。指先のピンセットつかみとつまむ力が必要となる。将来の作業では非常に求められる力である。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
 <p>クリップつなぎ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な短期記憶</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・根気強さ</li> </ul> <p>(Stage II 以上)</p>	<p>写真に示したジグを使って、5つ1組でつなぐ。一番上には見本が示されている。2番目（2列目）から作業を始める。見本は5つの色のクリップで作られている。見本と同じ色の順番で5つの色クリップをつなぎ、2列目からの枠内においていく。左の写真のようになる。最後は全部をつなげて、「のれん」を作る。色クリップは、100円均一の店で手に入る。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
 <p>なかまあつめ (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念形成</li> <li>・概念確認</li> <li>・分類の力</li> </ul> <p>(StageIII-2 以上)</p>	<p>身近な概念に含まれる具体的な関連物の写真を集める。2つの概念を対にして提示し、分類する。写真は、広告などを利用すると集めやすい。例えば、刺身、焼き魚、切り身、マグロ（1匹）、金魚はすべて「さかな」であることが理解できているかどうかはわかったり、それを机上で教えられる。もっとも、スーパーや毎日の食卓で教えることがベストであるが。</p>

 <p>なかまあつめ (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念形成</li> <li>・概念確認</li> <li>・分類の力</li> </ul> <p>(Stage III-2 以上)</p>	<p>身近な概念に含まれる具体的な関連物を表わす PIC カードを集める。概念を対にして提示し、分類する。他に、「学校関連 (学校にあるもの、学校ですること)」「鉄道関連」「家庭生活関連 (家のなかにあるもの、家ですること)」など。</p> <p>写真は2つのカテゴリーでの分類を示している。カテゴリー分類は、4つまでなら混乱なく行えるように思われる。</p> <p>PCS カードなど他のシンボルシステムを用いた同じような課題も考えられる。</p>
 <p>男女分け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注意力</li> <li>・弁別能力</li> </ul> <p>(Stage III-1 以上)</p>	<p>PIC カードで示された「男性」「女性」の枠内に、男性の顔と女性の顔を分類して貼っていく。顔の写真カードを男女おのおの15枚ほど1つの箱に混ぜて入れておく。顔の表情や年齢、髪型はさまざまである。新聞広告や同僚職員の顔写真を用いる。</p>
 <p>両開きクリップ組み立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目と手の協応</li> <li>・指先の巧緻性</li> <li>・根気強さ</li> </ul> <p>(Stage III-1 以上)</p>	<p>写真に示す両開きクリップを組み立てる。手順者は部品を組み立てるようすを順番を追って描いている。クリップは市販品で、サイズ「小」の大きさの物を使う。(黒い) 胴部の部品と2本のテコ部は別の位置に入れておく。左から胴体部、テコ部を順に取って組み立てていくように、部品の配置を行なう。完成品を入れる箱を右側に置く。</p> 
 <p>カラーボールペン組み立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の弁別</li> <li>・手指の巧緻性</li> <li>・正確さ</li> </ul> <p>(Stage II 以上)</p>	<p>10色のカラーボールペンを使用。ボールペンを分解して、左から、胴体部、インク、栓、キャップの順に分類して置いておく。完成品入れの箱を一番右に置く (写真参照)。胴体部以外の部品はすべて同じ色で1本のボールペンに仕上げなければならない。カラーボールペン10本組みは、100円均一の店で入手可能。</p> 
 <p>ノックボールペン組み立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成能力</li> <li>・正確さ</li> <li>・手指の巧緻性</li> </ul> <p>(Stage III-2 以上)</p>	<p>一般的なノック式ボールペンを分解して使用。ばねやスペーサーといった細かい部品まで分解して、6個の部品から作成するように配置する。左の部品から順番に取っていけば、完成できるような配置の方法とする。一番右側には完成品入れの箱を置く (写真参照)。手順書は、実際のボールペンを分解したものを貼り付けて、実物での表示としている。5本の組み立てを一つの課題とした。</p>
 <p>ネジ組み立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成力</li> <li>・正確さ</li> <li>・手指の巧緻性</li> </ul> <p>(Stage II 以上)</p>	<p>写真のネジは、自転車の部品の「チェーン引き」というもの。3つの部品からなっている。真ん中の部品には向きがあり、また、ナットの締め付けはネジを5mm 残して行なう条件付き。そのために、見本を実物の完成品で示している。手順書は当初作っていた。部品点数が3点と少ないものを左から取っていけば完成できるので、完成品を見ることで組み立てができています。</p>

 <p>話の配列</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>因果関係の理解</li> <li>継次処理 (StageIV以上)</li> </ul>	<p>4コマの絵で、因果関係を表現した話を順番に並べる。左から右に向かって、時間の経過を追って、絵の書かれたカードを並べる課題である。右は話の例題。</p> 
 <p>線つなぎ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意集中</li> <li>短期の視覚記憶</li> <li>目と手の協応の力 (StageIII-1以上)</li> </ul>	<p>いくつかの点を線で結ぶ課題。写真のように見本が左上に示されている。右下の図に、その通りに鉛筆などで線を引く。線を引く際に、ものさしを使う練習をさせることもよい。課題のプリントは、オリジナルで担当者が作成できる。点の数は、はじめのうちには16個(4×4のマトリックスとする)までがよい。フロスティグ視知覚発達検査の「空間関係」の把握検査を参照。</p>
 <p>迷路</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目と手の協応</li> <li>見通しを持つ (StageIII-1以上)</li> </ul>	<p>写真は市販の幼児用練習帳を用いている。このような市販のものは難しいようで、「道」をすべて線で埋めてしまわないと終わらないことが多かった。最初から市販のものを使うよりも、一本線をなぞることから、線の間をはみ出さないでたどっていく課題へと移っていく方がよい。入口から出口へというルールを確実に理解できるような課題から入りたい。</p>
 <p>模倣</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意集中</li> <li>身体図式の獲得 (StageII以上)</li> </ul>	<p>子どもたちと向かい合って座り、写真に示すように両腕を使って身ぶりを行なう。例題に示す順番で担当者が身ぶりを正確に行ない、模倣をさせる。動作と動作の間に、担当者は両手を自分のひざに一度置くようにする。</p> <p>両腕の交差や例題1と2に示すような部分模倣は苦手な場合が多い。</p>